

は伏流となっている。ほどなく水流もあらわれ、F1 6mとなる。これは右側を直登する。上流はナメ床が断続的に続き、段々を所々にミックスしている。ナメとナメの間に小さな落差の滝、F2、F3を落とし、この沢の核心部であろう。やがてF4 6mのナメ滝に着く。左右どちらでも登れる。仕事道らしい、荒れた跡跡がところどころに見えている。

8:50、二俣に着く。右俣が本流でそっちに入る予定だったが、判断がまずくて左俣をつめてしまう。背たけほどのカヤのやぶを沢ぞいにつめ、かん木帯をぬける。9:50、696mピークと670.3mピークのコルに到着。一息いれて下滝野沢(仮称)への下降に移る。 (記)

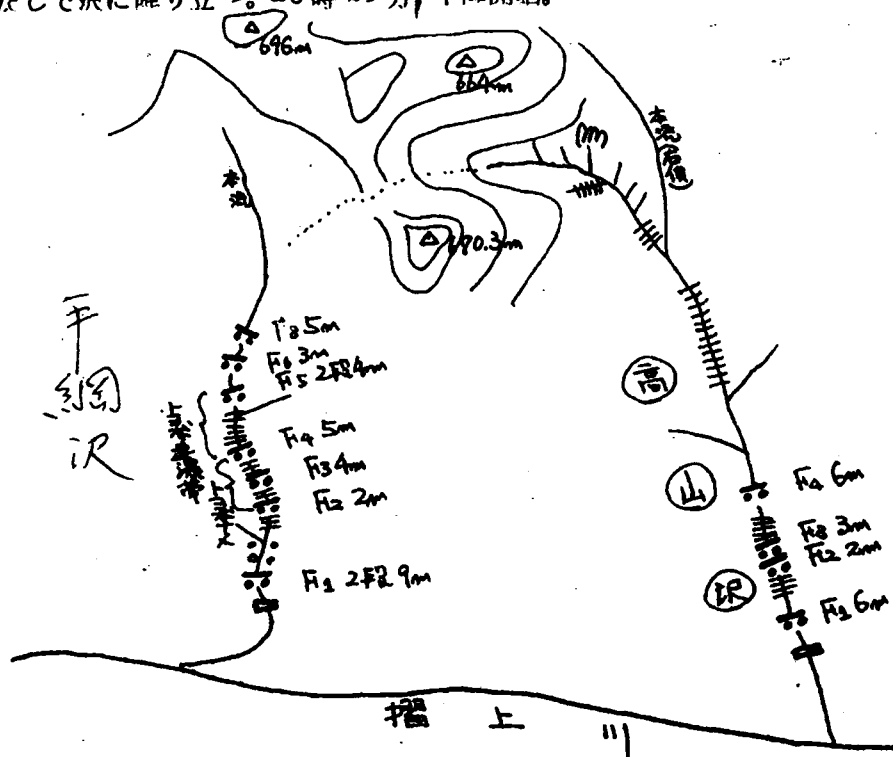
高山沢取付えん提(7:20)——二俣(8:50)——コル(9:50)

手廻
下滝野沢(仮称・下降)

1982年8月29日

L:

コルから下滝野沢(仮称)へ下降する。こちらは高山沢側と植生が異り、やぶこぎもなしで沢に降り立つ。10時25分、下降開始。



こちらの沢は両岸がせばまり、ナメも落差のある連瀑帯が続き、高捲いて下降。
下流部には取水用の塩ビ管がぶらさがっている。連瀑帯を過ぎると河原となり、
まもなくF1。2段9mの滝で、滝下が取水せきとなっ
ている。取水せき下は広い河原で、そこを通りぬけて摺
上川本流に出る。下降終了11時55分。

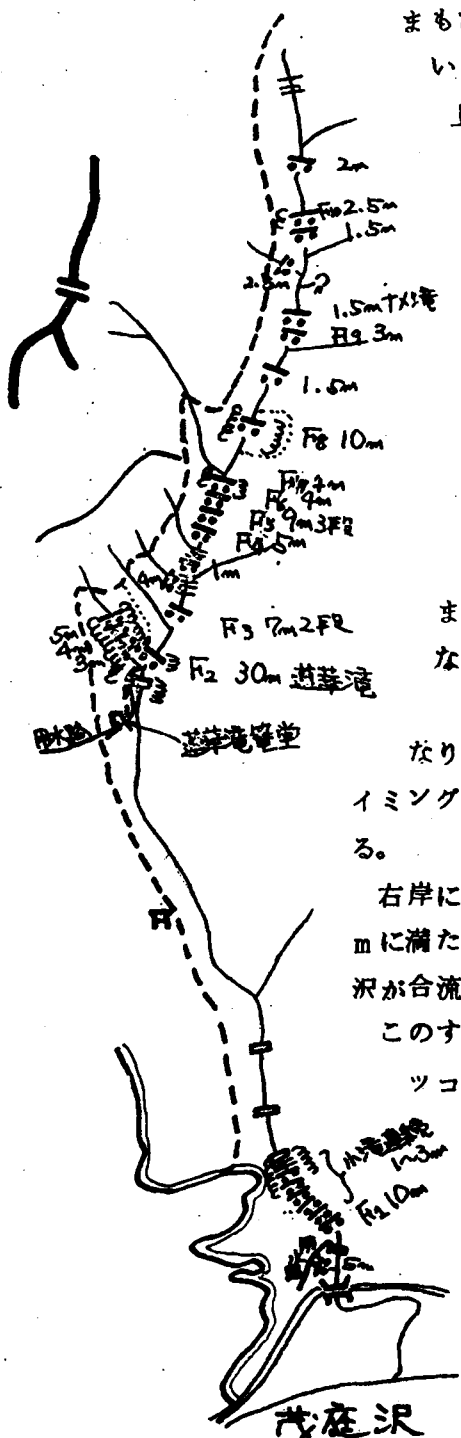
(記・

コル(10:00)——下滝野沢(仮称)出合(10:
25)——取水せき(11:35)——摺上川本流(
11:55)

1982年5月23日

茂庭沢上流部(下降)

L: ...



小沢を下降して林道へ出、この林道をそのまま県境
まで歩いてから茂庭沢の下降に入る。林道は少し広く
なった所から先は廃道化していた。

沢に入るとすぐに水が出てきた。少し下ると二俣と
なり、その下に小滝がある。2m。右岸の木を使ってクラ
イミングダウン。しばらくするとF10 2.5m。左岸を下降す
る。

右岸に林道の広がっている所のガレ場が見えている。1
mに満たない滝が4つ連続して現われ、その先で右岸より小
沢が合流する。この小沢、本流より水重が多い。3倍もある。
このすぐ下左岸にはトンネルの跡らしいものがあり、トロ
ツコの残がいてもあって、レールも残っていた。昔、このあ
たり一帯には、大小の金や銀の鉱山があったそうで
である。有名なのは半田銀山であるが、ここのも
その1つであったのだろうか。

小休止後、再び歩き出す。しばらくすると、F
7 10mが出てくる。下はゴルジュ状。左岸を捲
いて下りる。ここらあたりからが核心部で、F7
4mは左岸をクライミングダウン。次のF6 4m